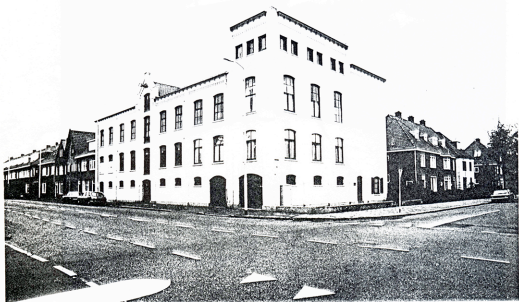


#### アポロハウス概要

アポロハウスはアートのための舞台です。1階には1年のうち9カ月間いている3つのスペースがあり、そこでは展覧会、パフォーマンス、そしてときに講演という形で、アートが展示されます。展覧会はふつう2〜3週間続き、火曜日から日曜日まで開いています。オープニング、パフォーマンス、コンサート、講演はだいたい週末の夜か日曜日の午後に行われます。すべての活動のために、1年ごとの更新時にDMの郵送の継続希望している人々に、すべての活動のDMを郵送しています。郵送リストはだいたい350〜650に及びます。多くの活動はポスター、新聞、ラジオで広報します。また、アポロハウスは出版物、アーティストブック、レコード、カセットテープなども販売しています。他の機関とのコンタクト、作家からの発案で、ふつう、プロジェクトのコラボレーション、交換が行われます。アポロハウスはしばしばアーティストのプレゼンテーションのための媒介的な役目をし、どこでもそのプレゼンテーションをオーガナイズします。アーティストたちはさまざまな期間の間に、スタジオのひとつで制作をし、恒常的にアーティストに提供されるゲストルームに滞在します。アポロハウスはアーティストと共感者が出会う場所であり、アートが展示される場所であり、アートに関する思想が交換される場所なのです。



Het Apollohuis  
Tongelosestraat 81  
5613 DB Eindhoven  
The Netherlands  
040 440393

Foto: Pieter Boerman

アポロハウスの第1の目的は簡単です。それはさまざまな理由で、美術館や画廊で提供されない、よい質をもっているアートを呈示することです。ふつうはアーティストは無名の人々です。作品が大衆の知覚能力、イマジネーション、経験の多くを要求するものなら、反応は少数の人々の集まりの域から出ることは期待できないでしょう。質のよい、新しいアートに注目させるため、他の美術館や画廊と同じような選択基準をとることもあります。しかし、アポロハウスの原則はもうひとつのアプローチ、質のコンセプトに対する解釈を指し示すことだと思っています。

マテリアルやコンセプトの性質によって限界はありますが、原則的にアポロハウスはアートを刺激し、発展に貢献するような活動のすべてに関われていますし、また、芸術的な修養、芸術の混合のすべてに関われています。

アポロハウスは、アーティストの作品に対する材肉、意義を始め、討論を刺激する舞台でなくてははいけません。この目的の効果を計測することはとても難しいことです。アーティストが美術館に受け入れられたり、またはアートマーケットで興味が起これば、すぐにアポロハウスは退きます。これまでずっと、アポロハウスは美術館、アートマーケットとの配膳口の役割を演ずることを仕事のひとつとして、果たしてきました。大衆が受け入れていても、アポロハウスは比較的無名なアートを喜んで支持することのできる人々、未来のアートを認識する過程で、自ら進んで役割を演じたいと思っている人々にアピールすることができるだけです。過程は初めに共感者の小さなグループから巻き込んでいきます。アポロハウスは、種をまき、収穫は他の機関にまかせることを選択してきました。

いまだ、すべての活動を適切に説明するライターのエキスパートや手段の欠落があります。たくさんの活動は毎年比較的少ない予算と人力でオーガナイズされているのです。

一般の人々の状況からいって、名の知れた作家またはその土地の作家のほうが無名の作家、他の土地出身の作家より、よりたくさんの人々を呼ぶといえます。活動がなんの興味を引き起こさないのなら、アポロハウスの目的は満たされないし、また多くの大衆を惹きつけるような活動は、プログラムには含まれません。パフォーマンスのビジターの平均は20~40人で、展覧会やインスタレーションの場合にも同じことがいえ、平均は50~150人です。だいたいビジターの半分はアインドホーベン以外から来ています。

アポロハウスはビジュアルアートと音楽のマージナルな領域にある注目すべきアートの紹介を先駆けてきましたし、この領域で活動する作家たちの認識の増加に貢献してきました。

(カタログより抜粋)

このレクチャー開催に当たって協力して下さった方々に感謝します。

通訳	清水眞理子
資料作成	吉武 リエ 氣田 礼子
機材提供	星 龍象
アーティスト	水留 周二
協力	ハイネケンビール

## Paul Panhuysen略歴

ヴィジュアル・アーティストおよびアポロハウス（アインドホーヴェン、オランダ）ディレクター。1934年8月21日、オランダ、Borgharenに生まれる。

1959年 Jan van Eyckacademie Maastricht（絵画、モニュメンタル・アート専攻）卒業。  
1957～1961年 ユトレヒト州立大学で芸術社会学を勉強。

## 職歴

1959年よりアーティスト活動（絵画、パフォーマンス、インスタレーション）を開始。

1962～1965年 アートアカデミー-Vredeman de Vries (Leeuwarden) のディレクターを務める。

1966年 ヘイグ市立美術館キュレーター。

1974～1983年 Zoetermeer、Nieuweschans、's-Hertogenboschのアーバン・プランニング・チームのアーティスト・アドバイザー。

1980年、アポロハウス（アインドホーヴェン）を設立以来、ディレクターを務める。

1986年より、P.S.1 美術館（ニューヨーク）、Artist Museum（ウッジ、ポーランド）、Stadsgalerie (Heerlen)、Fletch Bizzel（ドルトムント、ドイツ）の実験インターメディアのゲストキュレーター。

## 協会、学会役員

1969～73年 オランダ・アーティスト協会（BBK）、委員会役員。

1971～84年 芸術・産業財団（Kunst en Bedrijf）、委員会役員。

1976～86年 オランダ社会基金（Voorzieningsfonds voor Kunstenaars）、委員会役員。

1981～84年 オランダ・アーティスト協会総同盟、代表。

1977～79年 環境芸術作家協会（BBV）、共同設立者および委員会役員。

1970～80年 オランダ・アーティスト規定要請委員会（CCABK）、メンバー。

1979～85年 オランダ芸術会議（Raad voor de Kunst）、メンバー。

1981～86年 芸術・産業財団、顧問アーティスト。

1982～85年 State Grants ヴィジュアル・アーティスト諮問委員会（CPK）、委員長。

1983～89年 ロイヤル・アワード（絵画）審査員メンバー。

1986年～ オーディオ・アート・シンポジウム（A. A. S. ）、委員会役員。

1988年～ 地方自治体ミドルバーグ、芸術アドバイザー。

1989年～ 'Internationales Künstler Gremium'（IKG. ）、メンバー。

1992年～ 同上、副委員長。

1990年 Artists' Museum（ウッジ、ポーランド）の国際アーティスト委員会、メンバー。

## 主な活動

1962 ヨーロッパ絵画展、オーステンデ（ベルギー）。

1971 第7回バリ・ビエンナーレ、バリ（フランス）。

1976 ブラバント・ビエンナーレ、van Abbemuseum、アインドホーヴェン（オランダ）。

1978 Van Abbemuseum、ソロ、アインドホーヴェン（オランダ）。

1981 Van Reekum Museum、アーベルドールン（オランダ）。

1986 フォート・ポイント・チャンネル、ボストン。

- ニューミュージックアメリカ、ヒューストン（アメリカ）  
 実験インターメディア財団、ニューヨーク（アメリカ）  
 ギャラリージアノツ、ベルリン（ドイツ）  
 Time Based Arts、アムステルダム（オランダ）  
 州美術館、ハッセルト（ベルギー）
- 1987 Gemeinschaft für Aktuelle Kunst、ブレーメン（ドイツ）  
 DMA フェスティバルII、ボルドー（フランス）  
 アルス・エレクトロニカ、リンツ（オーストリア）  
 ギャラリーリップス、ソロ、アムステルダム（オランダ）  
 Hofvijverフェスティバル、ヘイグ（オランダ）  
 Welt Musik Tage ISCM、ケルン（ドイツ）。
- 1988 Molkerei Werkstatt、ソロ、ケルン（ドイツ）  
 オーガスタン美術館、F. A. U. S. T. フェスティバル、トゥールーズ（フランス）。  
 Künstlerhaus、ハンブルグ（ドイツ）。  
 シャッフシアター、アムステルダム（オランダ）。  
 Kunstmuseum Ehrendorf、デュッセルドルフ（ドイツ）。  
 アルス・エレクトロニカ、リンツ（オーストリア）。  
 Skulpturenmuseum Glaskasten、Marl。  
 Institut Néerlandais、ソロ、パリ（フランス）。
- 1989 WROフェスティバル、プロツラフ（ポーランド）。  
 「クリエイターたちのヨーロッパ (L'Europe des Créateurs)」、Utopies 89、パ  
 リ（フランス）。  
 アートフォーラム・フェスティバル、フェラーラ（イタリア）。  
 ルーレット、ニューヨーク（アメリカ）  
 Tagung für Neue Musik、ダルムシュタット（ドイツ）。
- 1990 Construction in Process（進行しつつある構築）、ウッジ（ポーランド）。  
 National Building Museum/WPA、ワシントン、ソロ/ABCニュース。  
 モンベリアール ビデオ・テレビジョン国際マニフェスト（フランス）  
 実験インターメディア財団（Experimental Intermedia Foundaton）ニューヨーク  
 （アメリカ）。
- 1991 オルタナティブ・フェスティバル、モスクワ、ソロ/テレビモスクワ（ロシア）。  
 リアルタイムストーリーテリング、グダニスク（ポーランド）。  
 P. S. 1美術館、ソロ、ニューヨーク（アメリカ）。  
 Arti et Amicitiae、ソロ、アムステルダム（オランダ）。  
 Stichting Archief、ヘイグ（オランダ）。
- 1992 Klangzeit Wuppertal、（ドイツ）。  
 ギャラリージアノツ（Gallery Giannozzo）、ベルリン（ドイツ）。  
 Museum Artystow、ウッジ（ポーランド）。  
 Ujazdowski城、ワルシャワ（ポーランド）。  
 Hills and Mills、Dom Kultury、プラティスラバ（チェコスロバキア）。
- 1993 Exploratorium、ソロ、サンフランシスコ/Artist in Residence（アメリカ）。  
 第1回パフォーマンス・フェスティバル、長野。  
 Graeme、リヨン（フランス）。

## カタログ

- 1978 『Paul Panhuysen』、Van Abbemuseum、アインドホーベン（オランダ）。
- 1986 『The Collection of Paul Panhuysen.』、州美術館、ハッセルト（ベルギー）。  
『Léonard van Stiphout.』、Ars Artis Simulacrum 1974-1986。  
『Long String Installations 1982-1985.』、Paul Panhuysen/Joan Goedhart、ア  
インドホーベン（オランダ）。  
『Paul Panhuysen/Joan Goedhart.』、G.A.K.、プレーメン（ドイツ）。  
『ニューミュージックアメリカ』、ヒューストン（アメリカ）。  
『Wellenlängen.』、Woltkerei、ケルン（ドイツ）。
- 1987 『Klanginstallationen.』、G.A.K.、プレーメン（ドイツ）。  
『ECHO. The Images of Sound.』、アポロハウス、アインドホーベン（オランダ）。  
『Welt Musik Tage. 1987.』、ISCM、ケルン（ドイツ）。  
『アルス・エレクトロニカ』、リンツ（オーストリア）。
- 1988 『Geluidskunst Nederland.』、シャッフイシアター、アムステルダム（オランダ）。  
『アルス・エレクトロニカ』、リンツ（オーストリア）。
- 1989 『Musik und Raum.』、ダルムシュタット（ドイツ）。  
『Aterforum.』、フェラーラ（イタリア）。  
『Klanginstallationen.』、C.U.B.A.、ミュンスター（ドイツ）。  
『Klänge.』、Burg Stolberg、アーヘン（ドイツ）。  
『L'Europe des Créateurs. Utopies 1989.』、パリ（フランス）。
- 1990 『Installationen.』、Fletch Bizzelシアター、ドルトムント（ドイツ）。  
『Death, Love, War.』、モンベリアール（フランス）。
- 1991 『Klanken aan de Dijk.』、Neerijnen（オランダ）。  
『Paul Pnhuysen Solo.』、Arti et Amicitiae、アムステルダム（オランダ）。
- 1992 『1 × 2.』、Grafisch Atelier Daglicht、アインドホーベン（オランダ）。  
『Hills&Mills.』、Arti et Amicitiae/Slovak Union of Visual Arts、アムステル  
ダム/ブラティスラバ（チェコスロバキア）。  
『Klagzeit Wuppertal.』、ブッペルタール（ドイツ）。

## ディスコグラフィ

- 1983 「Clock/Spider (時計/蜘蛛)」、The Summer Press Publications、カセットテ  
ープ。
- 1985 「Long String Installations 1982-1985」、LP 3枚およびブックレット、アポ  
ロレコード AR 088502/3/4。
- 1986 「Automatic Ukulele Orchestra (オートマティック・ウクレレ・オーケストラ)」、  
ギャラリー・ジ・アノツ編集、カセットテープ。  
「Music for Everyman (みんなのための音楽)」、Maciunas Ensemble、LP、ア  
ポロレコード AR 028605。
- 1992 「Engines in Power and Love」、CD、アポロレコード ACD 019210。
- 1993 「Number Made Audible (聞ける数)」、Maciunas Ensemble、CD、アポロレコー  
ド ACD 039211。  
「Singing the World into Existence」、CD、アポロレコード ACD 039212。